
《ツマリアンボール（スノーフィールドバレー）競技規則》

1. 競技の概要

ツマリアンボール（スノーフィールドバレー）は、バレーボール本来の楽しみを損なわずに、雪上の円形コートにおいて、3チーム同時に試合を行うレクリエーション的要素の高いスポーツです。

2. 競技規則

(1) 施設と用具

- ① コート
 - ・円形コートの広さは半径6.00mとする。
- ② ネット（アンテナ）
 - ・ネットは、バドミントン用またはバレーボール協会制定ソフトバレーボール用ネットを使用する。ネットの高さは、2.00mとする。
 - ・アンテナは、バレーボール用アンテナ（高さ1.80m）を使用し、センター支柱にネット上端から1.00m上方に出るように取り付ける。
- ③ ボール（モルテン製ミニソフトバレーボール円周63～65cm）
 - ・ボールは、日本バレーボール協会制定のソフトバレーボールとする。

(2) 競技者

- ① 競技者は、4名で行い登録選手は6名以内とする。
- ② 競技者は、主催者が用意したビブスを着用する。

(3) 試合の進行

- ① トス
 - ・各チームの主将は、トスにより、トスに勝った順にサービスコートを選択する。
- ② 試合時間
 - ・1試合15分とする。なお、試合時間が経過した時点でラリーが続いている場合は、そのラリーが終了した時点で試合終了とする。
- ③ タイムアウト
 - ・各チームは、競技中に1回のタイムアウト（30秒以内）を要求することができる。ただし、試合残り時間が30秒を経過した以降は、要求することはできない。
 - ・タイムアウト中は、試合時間を止める。
- ④ 選手交代
 - ・選手の交代は、一試合4回以内とする。（ただし、一度交代した選手がもう一度コートに入るときは、同じ選手と交代すること）
 - ・試合残り時間が30秒を経過した以降の交代はできない。
 - ・交代中は、試合時間を止めない。

(4) 得点および勝敗

- ・15点からのロスポイント制とし、いずれかのチームが0点になったときに勝敗を決定する。
- ・いずれかのチームが0点になる前に、試合時間が終了した場合は、終了時点での得点で勝敗を決定する。
- ・同点の場合は、各チーム代表者のジャンケンにより勝敗を決定する。

(5) 審判団の構成および権限

- ・審判団の構成および権限については、下記の通りとする。
- ① 構成

- ・試合のための審判団は、次の役員によって構成する。
主審1人、副審2人（ラインズマンを兼ねる）、記録員1人・点示員2人・計時係1人（参加チームから選出する）。
- ② 位置
 - ・主審は、ネットの一方の端に置かれた審判台上で、コートと同時に観察できる場所に位置する。
 - ・副審は、主審以外の支柱に位置し、主審を補佐する。
 - ・記録員は、主審の近くに位置する。
- ③ 権限
 - ・主審は、試合の準備段階から終了まで、その試合運営における最高責任者であり、規則に明示されていない全ての問題に関して決定を下す権限を持つ。
 - ・副審は、主審を補佐し、反則があった時は、吹笛しなければならない。

(6) プレー中の動作と反則

- ① サービス
 - ・サービスは、エンドライン後方のサービスエリアから1回とし、時計回りとする。チーム内のサーブ順は、ゼッケンナンバー順とする。※サーブは5秒以内とする。
- ② 以下のプレーがあったときは反則となり、そのチームは減点となる。
 - <オーバータイム>
 - ・ネットを越えて相手コートに打ち返すために、ボールへの接触回数がブロックを含まず最大3回を超えたとき。
 - <ネットタッチ>
 - ・インタープレー中にネットに触れたとき。但し、相手側の打球により膨らんだネットに触れたときはネットタッチにならない。
 - <ドリブル>
 - ・明らかに同一競技者が、二度続けてボールに触れたとき。但し、ブロッキングルールは除く。後、同一の競技者がボールに触れてもドリブルとならない。
 - <インターフェア>
 - ・ネットの上から相手のプレーを妨害したとき。
 - <オーバーネット>
 - ・相手コート上のボールに触れたとき。
 - <パッシングザセンターライン>
 - ・センターラインを完全に越えて身体が相手方コートに入ったとき。（足が相手方コートに入った場合相手のプレーに支障が無いと判断したものは無効とする。）
 - <サービスフォルト>
 - ・サービスボールがネットに触れるか、相手コートの競技者に触れずに相手コートの外に落ちたとき。（サーブに対してのアタックやブロックは反則とする。）
 - ・主審のホイッスル後、5秒以内にサーブを行わなかった場合。
 - ・主審のホイッスル前にサーブを行った場合。
（1回目は注意とし、サーブの打ち直しを行う。2回目は違反行為と判断し、そのチームの持ち点を減点する。1試合中に注意を受けた競技者が、2度目の注意を受けた時に適用し減点となる。）
 - <アンテナボール>
 - ・アンテナにボールが触れたとき。
 - <ネット下の通過ボール>
 - ・相手コートへ打ったボールが、その隣のコートのネット下を通過し、隣のコート内に落ちた場合もしくは選手に触れた場合は、通過したコートのチームの減点とする。アウトになった場合は、打ったチームの減点とする。
- ③ サービス以外は、手以外の体の部分を使用してもよいものとする。